

ユニークベニユー アンクス美術 館 Produced by 天地人

光と芸術が織りなす、新たな冬の風物詩。鹿児島市立美術館を舞台に、
市民とアーティストが創り上げる幻想的な夜。

企画の背景と想い

【企画背景】

冬の天文館公園のイルミネーションは、恋人たちや家族連れが温かい時間を過ごす、鹿児島の冬の風物詩として長年親しまれてきました。2025年、天文館公園のイルミネーションは新たな転換期を迎え、今年の開催は見送りとなりました。「この街の冬の灯りを、途絶えさせたくない」——そんな想いから、本プロジェクトは始まりました。

【光と芸術の融合】

本企画では、単に電球を並べるイルミネーションではなく、「心が動く美しさ」「心で味わう作品」をお届けすることを目指しています。子どもたちに目を輝かせてほしい、大切な人と過ごす忘れられない冬の記憶をつくってほしい。そんな想いから、日頃から創造活動を支えてくれるアーティストへの感謝を込め、美術館とタイアップし、アーティストの手による「作品としての光」で街を彩る、従来とは異なる新しいイルミネーションの形を実現いたします。地域に根ざすクリエイティブ企業として、鹿児島市立美術館、アーティスト、天地人と協力し、特別な冬のイルミネーションをお届けします。

また、「サンタさんが鹿児島にお家があったらどんな家だろう？」そんなワクワクする想像をしながら子どもたちに楽しんでもらいたいと、鹿児島弁で親しみを込めた「サンタ家（さんたげ）」という体験型作品も展示します。温かな木の香りに包まれた三角屋根の小屋は、中に入って楽しむことができ、家族みんなで笑顔になれる空間です。

【みんなで創る、街の冬物語】

このイルミネーションは、誰かが「やってあげる」イベントではなく、市民のみなさん、アーティストたち、地元企業、マモル電工合資会社、ギャラリー天地人——それぞれが「自分たちの街を元気にしたい」という想いをもち寄り、手を取り合って実現するプロジェクトです。

子どもたちの「わあ、きれい!」という声、恋人たちが寄り添う姿、家族の笑顔——そんな温かな風景が、この街の宝物になってほしい。そして来年も、また再来年も、「今年はどうな光が見られるかな?」とワクワクしながら、みんなで集まれる場所になってほしい。そんな想いが詰まっています。誰かに任せるのではなく、みんなで創る。それが、この「アンクス美術館イルミネーション」です。ぜひ、この冬は鹿児島市立美術館へ足を運んで、温かな光の風景を一緒に楽しみましょう。

開催概要

名称	ユニークベニュー アンクス美術館 Produced by 天地人
会場	鹿児島市立美術館（鹿児島市城山町4-36）
期間	2025年12月22日(月)～2026年1月31日(土)
点灯時間	18:00～22:00
入場料	無料
主催	株式会社アンクス
後援	ギャラリー天地人

【重要】点灯休止日について

毎週月曜日（祝日の場合は翌火曜日）および年末年始（2025年12月29日～2026年1月1日）は、美術館休館に伴い点灯を休止いたします。予めご了承ください。

✨ 点灯式セレモニー

日時：2025年12月22日(月) 18:00より

オープニングを飾る点灯式を行います。関係者による挨拶およびカウントダウン点灯を予定しております。

イベントの4つの特徴

- **光と芸術の融合**：単なるイルミネーションを超えた、アーティストによるインスタレーション作品。
- **地域活性化**：天文館公園の灯火を継承し、街の賑わいを創出。
- **完全無料**：誰もが気軽に芸術に触れられる開かれた空間。
- **産官民文化連携**：企業、行政、市民、文化施設が一体となった取り組み。

ギャラリー天地人様からのコメント 「『アーティスト×イルミネーション』のイベントは、イルミネーションの光がアートをもっと身近で親しみやすいものに変えてくれる、そんな特別な場になります。アートは遠いものじゃなく、イルミネーションのように誰の心にもふわっと寄り添い、自分の中にある小さな表現の種をそっと照らしてくれるんです。表現することの美しさや楽しさが、あなたの日常の中にもそっと溶け込んでいくような、そんな温かい体験になればと思っています。」

プロデューサー・アーティスト・協力者紹介

プロデュース：ギャラリー天地人（外山正隆）

参加アーティスト：高橋素晴（手づくりの暮らし研究家）、NORIO NAKAMURA（ZIGN / MIRRORBOWLER）、橋

口博幸（竹文化研究家）

設営協力：マモル電工合資会社

展示作品紹介 (1)

光明来誕 (Koumyou Raitan)

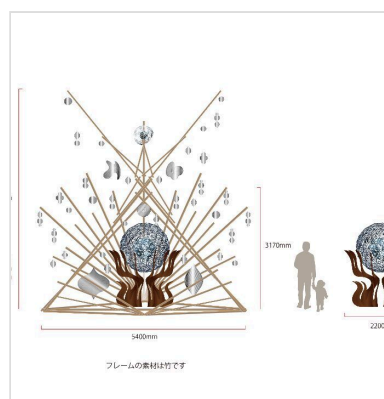
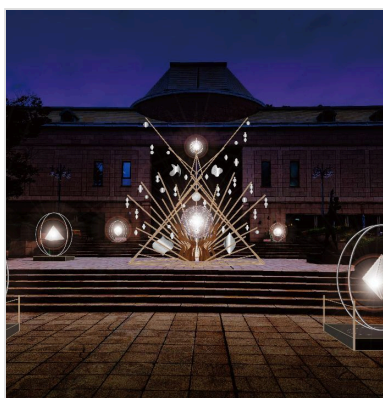
Artist: NORIO NAKAMURA (ZIGN / MIRRORBOWLER)

【アーティスト紹介】

光と陰の空間作品を創り出すインスタレーションアート集団「MIRRORBOWLER」の中心メンバー。ステンレス等の素材を用い、複雑な光の反射と影を操る作品を制作。音楽フェスやミュージックビデオの演出など多岐に渡り活動中。

【作品コンセプト】

「光明来誕」は、光が生まれ来る瞬間を表現したインスタレーション作品です。5つのエレメントから構成され、ステンレスの鏡面と光の反射が織りなす幾何学的な美しさは、見る角度によって無限の表情を見せます。暗闇の中に浮かび上がる光の結晶は、希望と未来への道標を象徴しています。



作品イメージ (左から：全景、ディテール、夜間の演出イメージ)

※展示作品は調整中のため、変更になる可能性があります。

展示作品紹介 (2)

サンタ家 (さんたげ)

Artist: 高橋 素晴 (Subaru Takahashi)

【アーティスト紹介】

鹿児島県大隅半島を拠点に活動する「手づくりの暮らし研究家」。14歳でヨットによる単独太平洋横断の最年少記録を樹立。自然と共に生きる知恵と技術を伝えるワークショップや、廃材を活用した建築・創作活動を行っています。

【作品コンセプト】

「サンタさんが鹿児島にお家があったらどんな家だろう？」

そんな素朴な疑問から生まれた、子どもたちのための体験型作品です。鹿児島弁で「~の家」を意味する「~げ」を掛け合わせ、「サンタげ (サンタの家)」と名付けられました。

【特徴】

温かみのある木材で作られた三角屋根の小屋は、実際に中に入ることができます。木の香り、窓から漏れる優しい光、そして秘密基地のようなワクワク感。家族で写真を撮ったり、中でおしゃべりをしたり、クリスマスの温かい思い出を作る場所です。



作品イメージ (左から：外観、内観の様子、夜間のライトアップイメージ)

※展示作品は調整中のため、変更になる可能性があります。

展示作品紹介 (3)

不安定な安定 (Precarious balance) ※仮

Artist: 橋口 博幸 (Hiroyuki Hashiguchi)

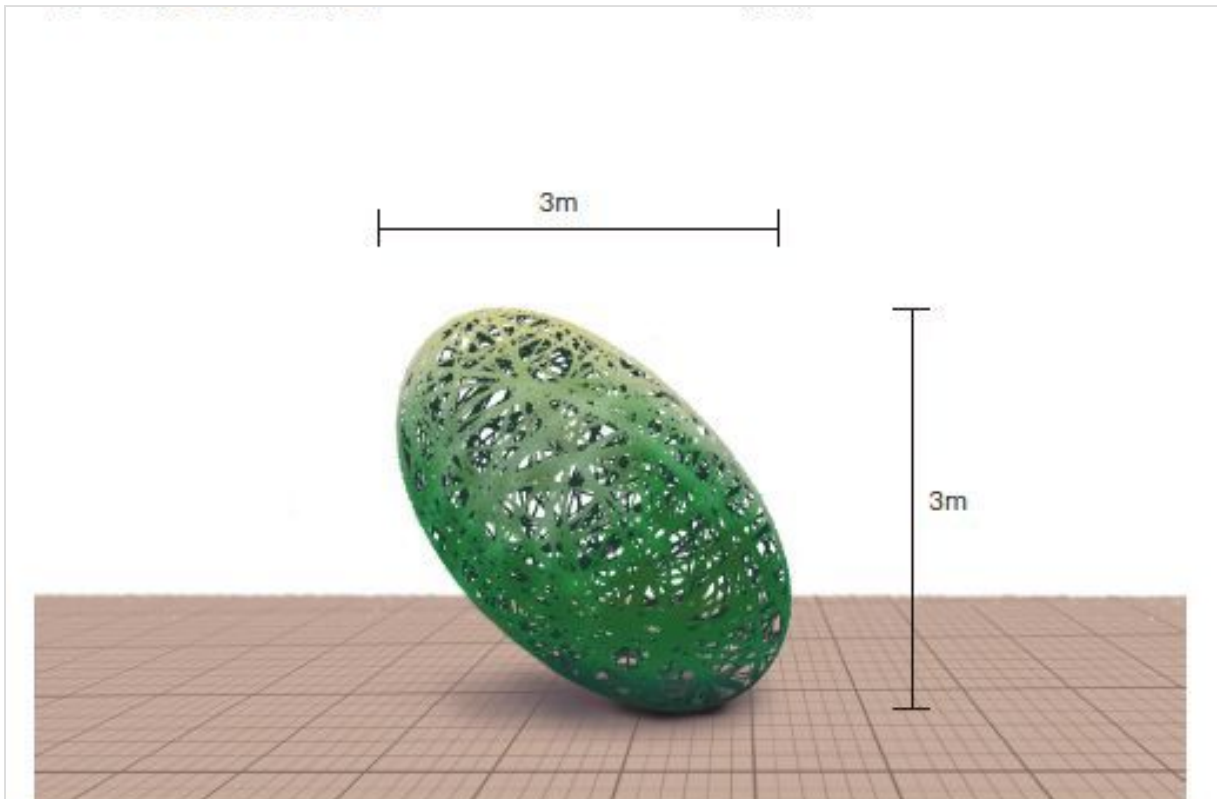
【アーティスト紹介】

1982年鹿児島市生まれ。竹文化研究家。2007年より竹文化の研究を開始し、「竹あかり」の演出制作集団「CHIKAKEN」とのコラボレーションなど、全国各地で竹を用いた空間演出を手掛ける。2017年にはサンパウロ「ジャパン・ハウス」での展示にも参加。

【作品コンセプト】

竹という素材が持つ「しなやかさ」と「強さ」。相反する要素が絶妙なバランスで均衡を保つ姿を表現します。竹とロープのみで構成された構造体は、一見不安定に見えながらも、重力と張力の調和によって自立しています。

揺らぐ光の中で浮かび上がるその姿は、変化の激しい現代社会において、私たちが模索する「安定」の在り方を問いかけます。



作品イメージCG（竹を使用した構造体）

※展示作品は調整中のため、変更になる可能性があります。

会場・アクセス情報

鹿児島市立美術館

〒892-0853 鹿児島県鹿児島市城山町4-36

照国神社の鳥居の近く、西郷隆盛銅像のすぐ裏手に位置します。

アクセス方法

市電	「朝日通」電停下車 徒歩約5分
バス	カゴシマシティビュー「西郷銅像前」下車 徒歩1分 その他路線バス「金生町」バス停下車 徒歩5分
お車	九州自動車道「鹿児島北IC」より約20分 ※美術館敷地内に無料駐車場あり（台数に限りがございます） 満車の場合は近隣のコインパーキングをご利用ください。

ご来場の皆様へのお願い

- 会場内での三脚を使用した撮影は、他のお客様のご迷惑にならないようご配慮ください。
- 作品には手を触れないようお願いいたします（「サンタ家」など一部体験型作品を除く）。
- ゴミは各自お持ち帰りいただきますようご協力をお願いいたします。
- 夜間は冷え込みますので、暖かい服装でご来場ください。

メディア関係者様へ

本プレスリリースに関するお問い合わせ、取材のお申し込みは下記までお願いいたします。

お問い合わせ先

株式会社アंकス

広報担当：青山、穂原

〒892-0843

鹿児島県鹿児島市千日町13-18 光学堂ビル8階

TEL: 099-213-9511

(受付時間: 平日 9:00 - 18:00)

公式ウェブサイト

<https://www.ankusu.com/>

取材・掲載について

本イベントに関する取材、写真撮影、記事掲載は広く歓迎しております。ご希望のメディア様は、上記担当者までお気軽にご連絡ください。